

## 景況感は2四半期連続で持ち直すも、先行きには不透明感

text by しがぎん経済文化センター 長山 真由美

今回の調査によると、現在(15年10-12月期)の自社の業況判断DIは-4となった。前回(7-9月期)から5ポイント上昇し、2四半期連続で持ち直したものの、7四半期連続でマイナス水準にとどまった。原油価格の下落は仕入価格の低下につながっているが、一部業種ではマイナスに働いた。中国経済減速の影響も引き続き懸念されている。一方、サービス業を中心にインバウンド(訪日外国人旅行)や国内旅行需要増などが好影響をもたらした。3カ月後の業況判断DIは、現在から5ポイント低下して-9となる見通しで、先行きは不透明である。

### 【調査概要】

- 調査名:「滋賀県内企業動向調査」
- 調査時期:2015年11月9日~11月27日
- 調査方法:郵送による配布、回収
- 調査対象先:滋賀県内に本社を置く企業  
または県外からの進出企業 939社
- 有効回答数:368社(有効回答率39%)  
うち製造業:171社(有効回答数の構成比 46%)  
うち非製造業:197社(有効回答数の構成比 54%)

### 【分析手法】

- DI(デフュージョン・インデックス)  
質問における回答の選択肢「プラス(良い、増加等)」、「中立(不変、適正等)」、「マイナス(減少、下落等)」のうち、「プラス」の回答割合から「マイナス」の回答割合を差し引いた指数。

らず一方で、一部業種ではマイナスに働いた。また、中国経済減速の影響を指摘する企業もあった。サービス業を中心にインバウンドや国内旅行需要増などによる好影響もみられた。

3カ月後は5ポイント低下の-9と、3四半期ぶりに回復の歩みが止まり、一転悪化する見通しである。

なお、**自社の業況回復の時期**については、「すでに回復(好調維持を含む)」した企業の割合は33.5%と3分の1に。「12月まで」(5.6%)を合わせると39.1%と約4割に上った。一方で半年以上先の「来年7月以降(不明を含む)」も3分の1(34.4%)を占め、一部では業績不振が続くとみられる。業種別では、「すでに回復」した企業の割合は、製造業の31.0%に対し非製造業は35.8%と、非製造業の方が回復の割合が高くなった。

### ②業種別の動向(図表2)

業種別にみると、**製造業**は、前回の-11から7ポイント上昇の-4となった。一般機械(前回:-14→今回:+12)が大幅に回復してプラス水準となり、金属製品(-11→±0)も回復し「もちあい」となった。電気機械(+15→+27)はさらに回復、精密機械(+50→+20)もプラス水準を維持した。輸送用機械(+10→-43)は大幅低下し、木材・木製品、窯業・土石なども厳しい状況が続いている。

3カ月後の製造業全体は、現在から7ポイント低下の-11となる見通しである。

**非製造業**は、前回の-8から3ポイント上昇し-5となった。卸売(-35→+3)が大きく上昇してプラス水準に回復。小売(-16→±0)も「もちあい」に、その他の非製造業(+20→+44)も上昇してプラス水準を維持した。不動産(-33→-38)、運輸・通信(-36→-21)は依然厳しい。

3カ月後は、現在から2ポイント低下の-7となる見通し。

### その他のDI…売上、経常利益は上昇もマイナス水準 仕入価格は5四半期連続で低下

### ●調査結果(図表3)

**売上DI**(前回:-12→今回:-6)は、製造業が「もちあい」にまで回復(-3→±0)。非製造業は上昇(-19→-11)したものの、依然マイナス水準(「減少」超過)が続いている。

理由としては、「設備投資に伴う生産性向上、品質向上により売上増」(化学)、「国内需要が堅調に推移。海外からの逆輸入製品の販売増の影響もあり、海外拠点向けの原材料の輸出も増えている」(その他の製造業)、「自動車・自動車部品メーカーの設備投資が活発で受注増」(建設)、「原油安の影響で粗利益率上昇」(卸売)、「国内旅行、インバウンドを含めた旅行需要増により予約数が大きく増加」(サービス)といった好調なコメントがみられた。一方で、「中国中心に海外市場の状況が悪い」(木材・木製品)や「原油価格が下げ止まらず、再生重油価格が大幅に下落」(化学)、「消費増税の影響が長引いて売上減少」(その他の製造業)、「住宅着工戸数が減少」(建設)、「輸送貨物の減少」(運輸・通信)

といった厳しい意見もあった。

その他、**経常利益DI**(-9→-7)は2ポイント上昇したものの、7四半期連続でマイナス水準となった。**製・商品の在庫DI**(+9→+6)は非製造業で過大感が弱まった。**販売価格DI**(-3→-3)は横ばい。製造業で4ポイント低下したが、非製造業は4ポイント上昇し「もちあい」となった。**仕入価格DI**(+24→+14)は-10ポイントと、大幅かつ5四半期連続で低下した。

**生産・営業用設備DI**(-3→-5)は、2四半期連続で低下し不足感が強まった。**雇用人員DI**(-20→-21)はほぼ横ばいで、14四半期連続でマイナス水準。人手不足が続いている。

### 設備投資の状況…5割を超え、2四半期連続で上昇 「生産・営業用設備の更新」が連続トップ

### ①設備投資の実施予定

今期(10-12月期)に設備投資を実施した(する)企業の割合は51%だった。2四半期連続で上昇し、3四半期ぶりに50%を超えた。業種別にみると、製造業は57%で、前回(55%)から+2ポイントと上昇。うち輸送用機械が100%、窯業・土石は70%となり、半数以上の業種で5割を超えた。非製造業は46%(同45%から+1ポイント)で、運輸・通信、その他の非製造業で7割、サービスで5割を超えた。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業が42%、非製造業が40%で全体では41%と、低下に転じる見通しである。

### ②設備投資の主な内容(図表4)

設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容をみると(複数回答)、「生産・営業用設備の更新」(47%)が最も多かった。次いで「車両の購入」(34%)、「生産・営業用設備の新規導入」(24%)と続いた。「生産・営業用設備の更新」は前期に引き続き高い水準を維持している。

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(57%)、非製造業は「車両の購入」(47%)が最も多かった。

調査結果の詳細は当社ホームページの「滋賀ビジネスレポート」に掲載予定。  
<http://www.keibun.co.jp/economy/business-report/>

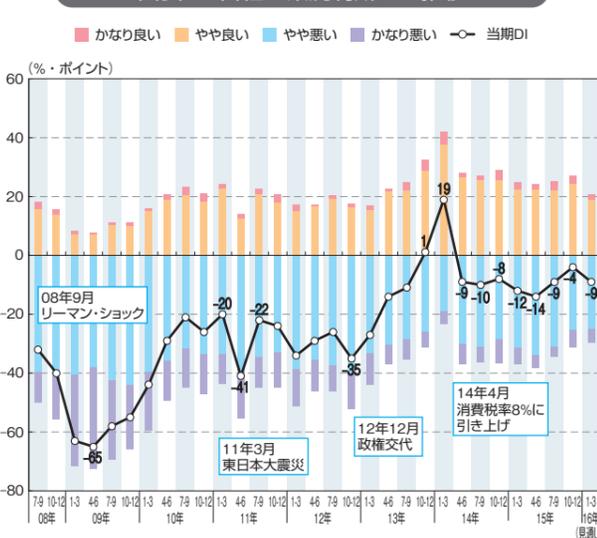
### 自社の業況判断DI… 2四半期連続で持ち直すも、マイナス水準

### ①全体の動向(図表1)

今回の調査(15年10-12月期)での**自社の業況判断DI**は前回(7-9月期)の-9から5ポイント上昇の-4となり、2四半期連続で持ち直した。一方で、消費増税が実施された14年4-6月期以降、7四半期連続で「悪い」と答えた企業の割合が「良い」を上回り、マイナス水準にとどまった。

14年4月の消費増税の影響は一部に残るものの、多くは和らいでいるようだ。下落が続く原油価格は仕入価格の低下をもた

図表1 自社の業況判断DIの推移



図表2 自社の業況判断DI(業種別)

業種(※1)	今回の回答社数	15年7-9月期 前回	15年10-12月期 今回(※2)	16年1-3月期 見通し
全体	367	-9	-4 (-4)	-9
製造業	171	-11	-4 (0)	-11
繊維	23	-33	-9 (-13)	-22
木材・木製品	8	-27	-50 (-18)	-63
化学	9	22	-11 (44)	11
窯業・土石	10	0	-20 (11)	-10
食料品	12	-8	-8 (8)	0
金属製品	16	-11	0 (16)	-6
一般機械	17	-14	12 (29)	-6
電気機械	11	15	27 (15)	0
輸送用機械	7	10	-43 (-18)	-43
精密機械	5	50	20 (0)	0
その他の製造業	32	-10	-3 (-18)	-16
非製造業	196	-8	-5 (-7)	-7
建設	58	12	-2 (-1)	-5
不動産	13	-33	-38 (-50)	-31
卸売	38	-35	3 (-11)	-16
小売	27	-16	0 (-30)	4
運輸・通信	14	-36	-21 (0)	-7
サービス	46	-2	-4 (9)	-2
その他の非製造業	9	20	44 (20)	25

(※1) 回答数が3社以下の業種(紙・パルプ、石油・石炭、鉄鋼、非鉄金属、電気・ガス、リース)は非表示  
(※2) ( )内の数値は前回調査時点での10-12月期の見通し

図表3 その他のDI項目

項目	15年1-3月期	4-6月期	7-9月期(前回)	10-12月期(今回※)	16年1-3月期(見通し)
売上(増加-減少)	-12	-6	-12	-6(-9)	-11
経常利益(増加-減少)	-17	-6	-9	-7(-11)	-13
製・商品の在庫(過大-不足)	9	6	9	6(5)	2
販売価格(上昇-下落)	-4	-1	-3	-3(-5)	-6
仕入価格(上昇-下落)	27	25	24	14(21)	12
生産・営業用設備(過剰-不足)	-6	-1	-3	-5(-4)	-2
雇用人員(過剰-不足)	-21	-11	-20	-21(-23)	-18

※( )内の数値は前回調査時点での10-12月期の見通し

図表4 設備投資の主な内容(複数回答、業種別)

